

■私の意見

神戸旧居留地は

世界一のショッピングゾーン

長澤 昭

元・大丸神戸店店長



2年前前に建築家の安藤忠雄先生にお会いした時、神戸の話が色々出た中で、神戸旧居留地について「あれは素晴らしい、日本一どころか世界一だよ。神戸市はもっと宣伝せんといかん」と言っておられました。旧居留地のショッピング街の開発について、遠い昔にいささか関わりをもった私としては、ちょっとり面映い思いでしたが、確かに神戸旧居留地のショッピング街は神戸が誇りとするに足る、独特の個性を持った魅力的なショッピング街であることは確かです。特にそれは、神戸大震災後の街の再建によって一段とレベルアップしました。大震災の後に建てなおされた大丸本館は旧居留地のイメージを一新しました。あの「新しくて懐かしい」建物意匠といい、トリアロードに面したオープンカフェの佇まいといい、これらが旧居留地全体のイメージアップに大きく貢献したことは明らかであります。又、新しく出店した色々なビッグブランドの店もそれぞれ旧居留地のショッピング街としての「格」を大きくレベルアップしました。

しかし、反面、正直に言って少し心配な面も出てきているかと思っております。一つは震災によって多くの古い石造りのビルが崩壊し、新しいモダンな明るいビルに建てかえられたために、古さの持つ独特の謎めいた陰影が無くなって、街が秘密っぽい魅力を失ったこと。二つ目には新しく出店したブランドが殆どビッグブランドに偏って来たためにマイナーではあるが、神戸らしい面白い店が圧倒されて少なくなり、街全体が普通っぽくなってきたこと。

私は神戸ファッションの伝統的な魅力は「バイオニア精神」であると思っています。常に「神戸ならではの」「神戸発」「神戸らしさ」を生み出して行く力こそ神戸の街造りの原動力にならねばならないと思っています。丁度旧居留地には歴史豊かなオリエンタルホテルの跡地が震災後まだ未開発で残っています。ここに若し神戸精神の原点に基づくショッピングゾーンが出来たら、又一段と旧居留地は「世界一」のユニークなショッピング街に名実共に近づいていくのではないかと思っています。

■ポエム・ド・コウベ ものがたり

詩 竹中 郁

画 小磯 良平

ゆつたりとした雲が影を落としてゐた。

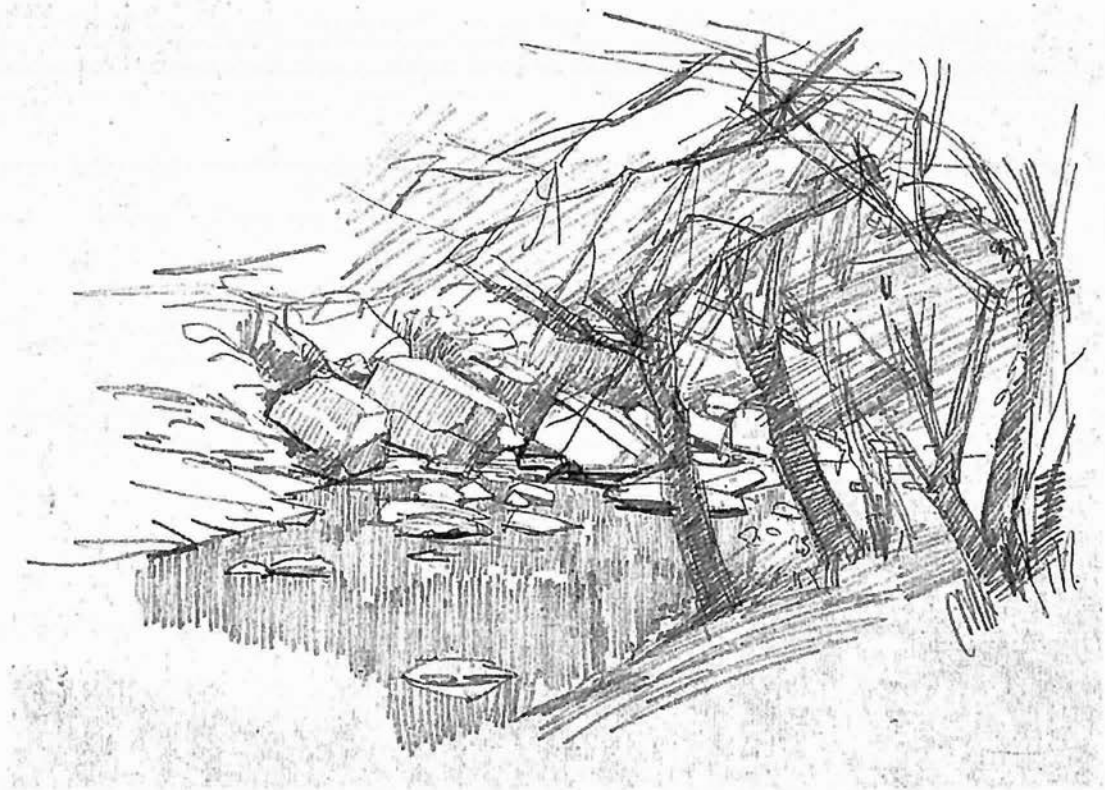
並木道や溜池や畠のうへを過ぎていった。

歓びも悲しみも押しかくして、雲はだまつて流れてゐた。

……とある一管の笛のうへで、雲はちよつと立ち停つた。

吹き手をさがしたが居なかつた。

それから雲は夜の半球の長い旅に立つて行方も知れずなつてしまつた。



池 昭和41年作
神戸市立小磯記念美術館蔵

ホスピタル紳士

文・竹田洋太郎
え・鳴居玲

最近、紳士、非紳士を含めて最大の話題といえれば病氣であり、ことに癌である。癌の専門医が癌で死去され、有名な文士がつきつきと癌に侵されている。さらに煙草が肺癌の原因という米国公衆衛生局の発表などもあって紳士も幾分心の動揺はかくせない現状である。

その他、紳士には特有の病氣、たとえば痛風、糖尿病、高血圧などがあって、種々の健康法、治療法を試みる人も多い。また自動車による事故なども顕発しているので紳士が入院するハメに陥ることも少なしとしない。

一方、紳士はときに「人間ドック」にはいつて各種の検査による診断を求めることも多い。そこで入院した際の紳士の一般の心得をのべてみたい。もっとも会社の経理状態が悪化したため、とか、労組がうるさいので、とかが真の理由である入院は紳士のなすべきことでないから、ここではのべない。

まず紳士にとって入院は人生のこよなき休息であり、次の活動の準備期間である。これを善用することは紳士にさらに磨きをかけることになる。またその間もさまざまに思いをこらし、人生を楽しむことである。

その一例として次のような方法が推奨される。

入院後最低三日間は絶対「面会謝絶」とすること。たとえヒョウソウの手術で入院した場合も人間ドックの場合でもある。その場合、家人や会社へ「絶対」であることを強調する。すると会社の同輩、下僚間で必ず動揺がおきる。「社長はそろそろダメなんじゃないか」とか

「あの人はいい人だった」とかいう奴が出てくる。退院後そういう連中の期待を破ることが大きな楽しみの一つである。また、見舞いと称して点数かせぎをする連中を遠ざけることも健康によい。

次に、入院中ではできるだけ病人らしくすることであ。頭髮もヒゲものび放題だと、その後見舞いにくる連中に前記の期待や確信を深めさせられる。(世間の常識に反して、真の紳士は無情なのである)

退院後、一般には病気を極めて大げさという人物と、全然大したことなかったと軽くいう人物に分類されるが紳士はこのどちらにも属してはならない。紳士は一切病状についてのべないことである。そうすればよい他人は「あの病氣はやっぱり人にいえないほどのものだ」と判断する。そうさせておいて、できるだけ長生きするくらい意地悪い楽しみはないのである。

紳士は会社の書類やそれに関係した書物を病院に持ち込んでほならない。持ち込む必要がある場合はかくして置くことである。

また、見舞品は、どうせ果物籠くらいが多いが、それは病室に並べておくこと。すると貧弱な見舞品をもっていった者が困るからである。

病室のにおいを消すためオードロンをまいたりする人があるが、そのような場合は家の仏壇から香りのいい線香をもってこさせてくゆらせる。見舞客がドアを開けるや否や「とうとう」と思ったら効果があったことに

「別冊紳士入門図解」

なる。また近くの病室の患者にも相当のショックを与えることができる。(病院から禁じられることがあるから注意)

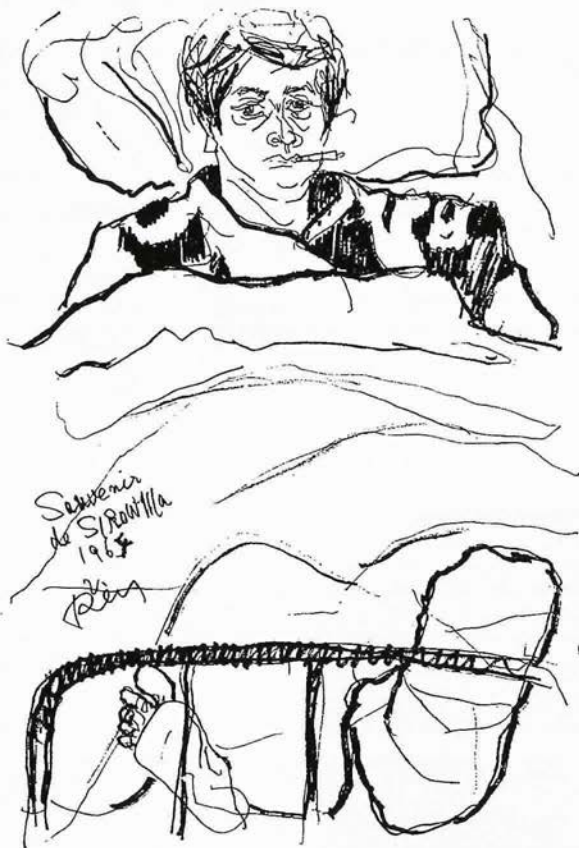
意地悪が紳士の存在価値であることはしばしば明らかにしたが、入院中、医師と看護婦に対して意地悪は行なうてはいけない。というのは、病床にある人間のする意地悪はしれているが、医師や看護婦は、やろうと思えばどんなこともできるのだから勝負にならないのである。ただ一つ、枕元にドイツ語と英語のグラフ雑誌を二、三冊置いておくと、お医者さんの方がカルテを書いたりする場合は都合になることもある。

家族の看護は最少限に止めること。現在原則として完全看護の態勢がとられているからでもあるが、家族があまり病室にがんばっていると、バーのマダム、ホステスといった美人の見舞客がトタンに少なくなる。夜しか見

たことのない彼女たちを昼見るのは健康回復に大きなプラスだといわれている。

さて充分健康回復し仕事についた時は「人間ドックで見てもらったら三十代の身体だそうだ」などと決しているってはいけない。黙ってうっとおしい顔をしていること、これが紳士の「平常心」で、病気の話題は紳士の間のみですることである。だが自分の病気を話してはいけない。「自分の入院したとき、あなたと同じようなことをいってた人がいたが事後はよくなかった。だがあなたは大丈夫だろう」とかいつて入院の経験をタテに相手方にショックを与えることである。

註：「ホスピタル」でなく「ホスピテル」なるものが近くできるらしいが、原則的には同じと考えてよい。ただホスピテルの方は入院料が恐しく高いだけである。



上図は小生画像。左足のギブスをご覧あれ。入院既に一月、ホスピタル紳士として多くはかたりたくない。
スネにキズ持つ男
レイ・カモキ

神戸のこと 手当り次第

淀川長治
え・中 西 勝

昨日、帝国ホテルの新館のロビーに行つてびっくりした。というのもこのごろは、なにかというホテル・オークラに催しものが多く、なんとはなしに帝国ホテルにごぶさたしていたからです。

それもほんの二カ月くらい、その二カ月が、三日見ぬまの花の山……と言つてびっくりであつた。というのは、まるでグラランド・ステーションさながらに、もう腰かける椅子どころか、たてこんだその人の波。アメリカ人、イギリス人、フランス人、サリをまとつた印度婦人。ケースを抱えてうろちよろする銀髪の老人。あざやかな胸のししゅうバッヂの赤い色、紺の服、スコッチ帽、半ズボン、そんな青少年団の一組。これはもうキャロル・リード監督の映画の一



場面の、その色彩美しい一瞬を見る思いであった。そんな中にいろんな用件で出入りし、または泊りこんでいるのであろうその日本人も堂々として、けっして外人連にいささかも見劣りしない。日本も変ったものである。

私が久しぶりでここを訪れたのは、あの懐しいアメリカの喜劇映画スタアのハロルド・ロイドに逢うためであった。

私は子供のころ二階の物置きで異様なものを、大きな木製の箱の中から引つ張りだしたことを……ふと思ひ出した。それは全身を白いビーズと黒いビーズで飾りたてた純白絹製の西洋婦人の夜会服衣裳であった。そしてそれが、むかし私の家にいた芸者の衣裳だと聞かされて二度びつくりした。あとでわかったことだが、神戸も鹿鳴館時代にならって、居留地では盛んに舞踊会が催されたのだそうである。もちろんお素人しゅうの紳士しゅう女が集ったのであるが、そんな宴席にも芸者しゅうもサーヴィス係りの一役を頂いて花代をつけられ呼ばれたのであろう。明治二〇年（一八八七年）のころでもちろん私はそんなころは生れては生れてはいるわけではない。まだ私はこの世に、そのころは空気くらいで液体にもなっていないときである。西洋人が外を通ると「異人さん」と珍らしがって家の中からとびだしてこわごわ眺めたころ。大正五、六年（一九一七年）のころ。兵庫の能福寺の大仏をよく西洋人が見物に来た。

あのミュージカルになつた「王様と私」。もとは女の人が自分の体験記を小説にした「アンナとシャム王」、あの中に出てくる西洋婦人そっくりの、すその長い、やわらかく大きくそのすその開いたスカート、柄の長いパラソル。そんな西洋婦人がひげの赤い西洋紳士と手を組んで、能福寺にやってくる。たいがい十人くらいの子供が鼻をたらし、紺がすりの着物の短かいすそから両足をニョキリと出して「異人さんやア」と、その西洋人のあとに金魚のウンコのように続く。私もその一人であった。ポカーンとして真正面から西洋人の青い目を見ていると、黒衣に黒ばかまの通訳の若い坊さんが、うやうやしく右に手を挙げ左に手を挙げ、なにやら説明し、そのたび



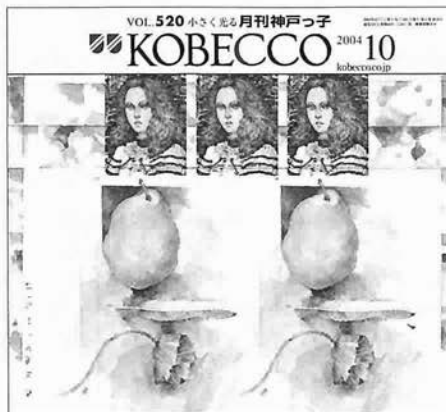
は持つて行って、その解らぬところを赤くしるしをつけて教えてもらったものだった。この家に行くとき家じゅうが犬の匂いとバターの匂いがして、これが西洋人の匂いというものなのだろうかと妙なところで感心したりした。もともとこのハリールの家は犬と猫と人間がおんなじくらしいの居住権を持っているような家で、椅子の上、テーブルの上、いたるところに大きな犬や猫が、がんと頑張つて押せども突けども立ちあがるけはいがない。

ある日、私はハリール君の胸に妙なしるしのついたバッヂを見たそれは地藏さんのマークそっくりで、それがヒットラー青年クラブのバッヂと知つて「あんた、ヒットラーを好きなんですか」この人と話をするときは日本語で話すことを許さない、私がすこしでも英語会話が上手になるようにと、いつも会話は英語にきめ、日本語を口にするといくらいくらの罰金を支払うことになっていたのである。そこでそう英語で聞くと、ハリール君、たしかあのころ二十二歳くらいだったと思う、その彼が「ハイ、ヒットラーはとても偉い人なんですよ、私も私の姉さんも、みんなヒットラーの青年クラブにはいつているのです」そう英語で答えるときの彼の顔には純粹な美しさがあふれ、いかにもそれを誇りとしている様子があった。

そのハリール君に私はアメリカの映画雑誌を見せながら、この意味はこうなんでしょうか、ここは、こうなんでしょうかと、ただどしい英語できくうちに、モリス・シュヴァリエの「今晚は愛して頂戴な」Love Me Tonight やハロルド・ロイドの「ロイドの活動狂」Movie Crazy やジョン・フォード監督のロナルド・コールマン主演の「人類の戦士」Arrowsmith あたりになると、ハリール君はすっかりアメリカ映画ファンの生地をまるだしにして自分から日本語になってしまつて、得意気に私に話して聞かすのであつた。ジョン・フォードの新しい映画をうれしげに語り教える彼の胸にヒットラーのマークのバッヂが輝いていたとて、そのころ、私はなんと不思議には思つてもみなかったのであつた。

★月刊神戸っ子ファミリーセール

<月刊神戸っ子文化研究所創設>



と き

11月11日(木) ~ 13日(土)

11日(木) 特別ご招待 13:00~18:00
 12日(金) 一般ご招待 10:00~18:00
 13日(土) 一般ご招待 10:00~18:00

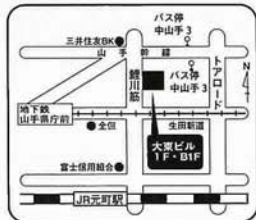
ところ

大東ビル 1F・B1F

(1F 婦人関連品、B1F 紳士関連品)

神戸市中央区中山手通3丁目4番8号

当日お問合せ/B1F なでしこ 078(331)1820



各種カード使用できます

- 紳士スーツお誂え
- 輸入ブランド時計 (エルメス、ブルガリ)
- 婦人カシミアコート (ファー付き)
- カシミアシヨール・ネクタイ etc.
- 高級ファージャケット

当日超特価掘出バザー

■主催■

月刊神戸っ子支援ファミリーセール実行委員会
 〒650-0011 神戸市中央区下山手通2丁目13-3-405
 TEL.078(331)2246 FAX.078(331)2795
 お問合せ/CPJ: TEL.078 (327) 5071

■協力■

フットテクノ株式会社



三屋 裕子（みつや ゆうこ）
1958年福井県生まれ。勝山中学→八王子実践高校→筑波大学とバレーボールで活躍。
1979年全日本入り。1980年モスクワオリンピック代表になるが、日本のボイコットで涙をのむ。1981年日立入社。1984年ロサンゼルスオリンピック第三位、銅メダルを手にする。その後は教職の道へ進み、現在は筑波大学非常勤講師として教鞭をとる。他、筑波スポーツ科学研究所副所長、日本フットサルリーグ理事、国税審議会委員など多彩な分野で活躍。2004年4月㈱シャルレ顧問として入社、6月に代表取締役社長兼最高経営責任者就任。

■玉岡かおる対談 お茶でも飲みますか？ ②

ゲスト 三屋裕子 〈株式会社シャルレ代表取締役社長兼最高経営責任者（CEO）〉

誰もしていないことをしないと
勝てないんですよ！

スポーツ界も経営界も
戦術は同じ

三屋 私は今年六月にシャルレの社長に就任させていだきましたが、社長業って多分、行きつくところ
は、人を育てることだと思っんです。私の下にいる人
達にどれだけやる気をもって仕事をして頂くか。創業
者は強力なリーダーシップをもってカタチを作ってい
きますけれども、引き継いだ者は、やはり創業者とは

違うエネルギーと人へのアプローチがなければいけ
ないと思います。バレーボールチームもそうですけど、
監督が変わると全く違うチームになってしまっって、と
たんに成績が落ちることがあります。ですから、先代
の意向を汲みながら、少しずつ自分のカラーを出して
いこうと。私はスポーツの世界から来ましたけれども、
目的に向かって頑張っていく集団という点で、そんな
に大きく実業界もスポーツ界も変わらないかなと思
います。



玉岡 かおる (たまおか かおる)

三木市生まれ、加古川市在住。

'87年「夢食い魚のブルー・グッドバイ」で神戸文学賞を受賞、同タイトル作品にて新潮社から作家デビュー。'00年加古川市特別文化賞受賞。執筆活動の傍ら、テレビなどのコメンテーターや行政の各種審議会委員などとしても活躍中。東播磨流域文化推進懇話会委員（'97～'00）。最近刊は'04年6月に「蒼のなかに」（角川書店）を上梓したばかり。

○主な著書「天涯の船」上・下巻（新潮社）最新作「をんな紋」三部作（角川書店）「水晶婚」（講談社・刊）ほか多数

玉岡 何となく我々は、三屋さんは結構大きな転職をされたという感じで受け止めていたんですが、同じ流れのお仕事だったんでしょか。

三屋 そうですね。データを見て、方向性を決めて、ポジションを決めて、検証しながら進むというのは、スポーツ界も経営界も変わらないと思います。

玉岡 ピラミッドの頂点で、たくさんの人をいかに心地よく動かしていくか、良いアイデアを出すかという点で、社長職と監督職は似ているんですね。

三屋 監督、もしくはGMゼネラルマネージャーかな。戦術だけではなく、もっと大きな戦略とか環境作りまで含まれるので、GM的ですね。私は経営界の経験がないので、スポーツ界にトランスレートすると、すごく自分の中でも理解しやすいんですが。

玉岡 そういう意味では、逆に選手としての長い経験があったからこそ：なんですね。

三屋 それと私は、バレーだけではなく、Jリーグに関わらせて頂いたり、運動処方の分野で医学界と親し

くさせて頂いたり、スポーツのフィールドにはいましてけど、そこらいろんな方々とのネットワークが広がっていたんですね。十年間、TBSの「サンデーモーニング」という報道番組に出演したことも大きかったですね。ちょうど湾岸戦争や金融破綻といった時代の大きなうねりがあって、スポーツだけじゃなく、あらゆることにコメントをしなければならなかった。コメントするには、理解しなければなりませんよね。そういうことを毎週してましたから。選手をやめてからの二十年間は、枝をいろんな方向に伸ばしていった時期で、多くの方に育てて頂いたと思っています。ですから、あまりストレスにならずに、切り替えが出来るのかなと思います。

玉岡 我々は、三屋さんというオリンピックの代表選手でいらしたインパクトが非常に強いですけど、その後の活動でどっしりと裾野を広げられたということなんです。

三屋 でも、核コアな部分はスポーツなんですよね。

そこを通して色んな人とのネットワークが広がるとい
う感じ。それが今回の社長業は、そのコアな部分が横
にいつてしまっているという、不安定感はあるかある
んです。ただコアは横にはあるので、トランスレー
トしながらやっているという状態です。

玉岡 これはバレエをやった時なら、どんなことに
当てるかは考えるということですね。実は私が今
日、お聞きしたかったのは、そのところ。不安定感。
今年私が出した長編小説『蒼のなかに』（角川書店）

では主人公が四十五歳で、トランジット＝人生の乗り
換えをテーマに書いたんです。四十五歳くらいとい
うのは、一生懸命打ち込んだできたものの輪郭が見えてき
て、例えば女性でしたら子育てなんかも一応終わりに
来てて、さあこれから、と考えた時に、次の世界に移
る不安とか不安定感というのを誰もが感じると思っ
たんですね。まさに不安定感とおっしゃって下さったので、
三屋さんにして同じことがあるんだと、すごく嬉し
かったんですけども。

別の世界に移られるに当たっては、さぞお悩みになっ
たのではないかと思いますが、その当たりのことを
教えて頂けませんか。

三屋 さすがの私も、今回は否定から入りましたね。

玉岡 できないとお考えになってた？

三屋 そう。無理、できないって。これまでは、やり
たいやっていたかったですけど。

玉岡 今までは、コアがしっかりしているから、同心
円を描くように輪郭を大きくしていけば出来たとい
うことですね。今回、出来ないと思われてたのが、変わ
られたのは時間的にどのくらいでしたか。

三屋 1ヶ月半から2ヶ月くらいでしょうか。私にし
ては天文学的に長い時間ですね。

玉岡 じゃあ、普段は即決型？

三屋 即決ですね。あ、やりたいうって。私ね、出来る

出来ないで物事を判断しないんですよ。やりたいか、
やりたくないかだけなんです。やりたいことには気
持ちはポジティブなので、何とか出来るようにしよ
うとなるんですよ。

玉岡 それが原点なんです。やりたい、やろうとい
う気持ちで、ここまでこられたと。

三屋 やりたいと思うことは誰でもやれると思ってい
るんですね。ただ、1年で出来る人と20年かかる人の
違いはあるわけで、どこで自分が見切りをつけるか。

だからずっとやり続けていれば、人間いつかは出来
るようになると思うんです。

玉岡 継続は力なりって言いますもんね。自分がどれ
だけ「やりたい」というモチベーションを持っている
か、そこに情熱があるかということなんです。

三屋 社長は、社員の人たちの生活、家族も全部を引
き受けてるんです。けど、何も前人未踏のことで
はないし、ひとりでも全部やれて言われてるわけでも
ない。だったら私にも何とかなるんじゃないかとい
うところに着陸をしていくわけですね。

玉岡 そうなると、じゃあやろう、やりたいという、
三屋さんらしい気持ちに変わっていくんでしょうか。

スポーツ界のノウハウを ビジネス界に

三屋 例えば、15歳でバレエのために福井から東京に
出たいと思った時は、誰を説得しなきゃいけないかと
か前向きに手段を考えていったんです。けども、今回は
出来るわけがないと思ってるから、何を解決しなきゃ
いけないかすら見えなかった。だけど、私がシャルレ
の社長をやるためには、何を整理して、どうやってみ
なさんに理解して頂いて…と、考えていたら少しず



つ落ち着いてきたんです。

玉岡 やる気というか、しんどいかもわからないけどやろう、という方向になると、心をほぐしていくものも見えてくるってことなんです。

三屋 やるためには何をしなきゃならないかというのが見えてくると、落ち着いてくるんです。

玉岡 ああそうか、それはもともとスポーツ選手としての本能というか、戦闘態勢というか、闘いの中に入っているわけですね。まさに戦略IIストラテジー。バレーのゲームをあれだけこなしてこられたからこそ出る言葉かなあと思います。

闘いに慣れてない軟弱な世代、運動会でかけっこしても一位はなくて、みんなでゴールっていう時代に育った世代は、何が乗り越えるべきポイントなのか、まず

それが見えない。何のために闘うのかもわからないし、だから当然戦略なんて立たないと思うんですよ。

三屋 どこに行きたいかが、私の場合見えてたからですね。例えばバレーに関しては、オリンピック。オリンピックに出るためにはどういうプレーヤーになるべきか、見極めないと。私よく選手に言うんですけど、ただ一生懸命やったって、それは一生懸命にはならないよって。

玉岡 頑張れ、頑張れって言われて、やみくもに頑張るだけではダメなんですよ。やっぱり戦略ですよ。

三屋 人間いっぺんには頑張れないと思いますし。だから私がコーチをする場合、今日は何をどこまで頑張りますって言わせるんですよ。自分が言ったことを頑張らなければ、こちらも厳しいことが言えますし。逆に頑張れたらちゃんとほめてあげますっていう部分

も示すと、子供たちでもちゃんとやりますよ。それから、新しいことに挑戦する時に身体が疲れ切っていたら絶対出来ないの、今日はこの技術を覚えましょうっていう時は、それしかやらない。

玉岡 欲張らないということですね。

三屋 そういうノウハウは、ビジネスの世界でも活かせる思うんですね。その点では楽なんですけど。

玉岡 人を育てたり収めたりという点では、GMのノウハウがそっくり使えるかもしれないですね。

三屋 じゃあ、何が不安定なのかというと、シャルレの中で私が一番新米。完全にコミュニケーション不足というのを感じるんですね、自分で。

玉岡 それはそうですね。何十年間も組織の中にいて培われてきた人間関係というのが、皆無の状態からお入りになっているわけでもうね。

三屋 これもスポーツ界に例えて言うと、バスケットのチームにバレーの監督が来ちゃったみたいなのですから(笑)。



玉岡 現場の人たちも、違和感はどうしてもあるでしょうね。でも、全然それがご苦労でないような感じでありさりとおっしゃるので、ネックにはなっていないようにうかがえるんですけども。

三屋 私がバレーの選手だったのは、みなさんご存じのことで、隠したってしょうがないですし。逆に、素人だってことをみんなわかってくれてる。背伸びすると、背伸びした分だけ笑われるって思うんですよ。わからないなら、素直に教えてもらった方がいい。それに開き直って考えたら、創業者だって素人だったんじゃないかっていうのがあるんですよ。

玉岡 それはそうですね、ゼロから始められたんですからね。

三屋 シャルレは女性下着の会社ですが、現名誉会長的林雅晴という創業者は、下着に関して素人だったし、しかも男性です。だけど、だからこそお客さまの声を一生懸命聞いて、ニーズに応えたものを作ったから今のシャルレがある。私も知らないことは素直に聞くかと思ってるし、みんなが教えてあげようという気持ちになってくれるんですね。短所だと思ってることが逆から見ると長所だったりするんですよ。林名誉会長も、知らないことは財産だと言ってますし、自分が弱いところを知ってるからこそ、強くなりたいと

思うじゃないですか。選手の時も、もっとうまくなりたいたと思っただからこそ毎日練習出来たわけだし、そういう生き方を身につけられて良かったなと思います。毎日悩むし、傷つくことも多いですけど、それは自分がステップアップするためだと思えますから。

玉岡 悩むことを恐れずに大きくなっていらっしゃるのが、三屋さんの現在かなという気がします。

**キレイに枯れるためには
キレイに咲こう！**

玉岡 今後、会社をこうしたいという展望とか目標は、どんなところに掲げておられるんですか。

三屋 シャルレって、創業当時の三十年前、画期的な会社だったんです。

玉岡 そうですね、品物を買うんはお店に行く、というのが当たり前だったあの当時に訪問販売って。

三屋 一九七〇年代は大量生産大量消費が加速した時代で、そういう時にひとりひとりにフィッティングして品質の良いものを提供するシャルレのサービスって画期的だったんですよ。そのサービスを提供するために、訪問販売というスタイルを採用した。店舗では無理だったんです。で、それで育ってきた会社だと思ってるんですが、今はひとりひとりがこだわりを持つ時代になりましたよね。

玉岡 先見の明があったということですよ、時代に先駆けたスタイルだったということ。

三屋 ところが、こだわりをもった人たちが、このシステムになじまなくなってきたのも確かなんですよ。こだわりのものは、来てもらわなくても自分で手に入れに行くという。これだけIT化が早く進むとは、私たちも思ってたんですね。情報がいろんなところからいっぺんに入ってくるようになった。七十年



代というのは、テレビ、雑誌というマス情報か、口コミ。で、口コミの情報は信頼性が高かった。だから伸びた会社なんですけど、今はひとりひとりが情報をものすごく細かく採りに行きますよね。知らない人とネットワークをつないでいく時代になってきた時に、信頼性うんぬんということが希薄になってきて、会社のビジネス自体が非常に弱くなってきている。そんな時だからこそ、またシャルレが新しいことをはじめた、三屋が来てシャルレが変わったというふうになればと思います。時代のニーズをちょっと先読みしたものを作っていききたいというのは、確かにあります。誰もやってないことをやらないと勝てないんですよ、世界に。例えばバレエなら、東京オリンピックでは回転シーブ、ミュンヘンでは時間差攻撃、モントリオールは光攻撃というのがあったんですよ。誰もやってないことをやった時に金メダルをとってる。

玉岡 今まさに日本の経済界が狙ってる目標に、三屋さんが向かってらっしゃるのがわかります。さて、ビジネス界の大きな目標をお聞きしてきましたけど、社員の人たちにこうあってほしいという目標は？

三屋 ひとこと言うと、すごく真面目な会社なんです。だから、この真面目さを残しつつ、もっとはじけていいかなという感じ。自分がこれをやると言ったら、

勇気もってやってもらってかまわない。みんなが自分は会社にとってどういう存在なのかを自覚して、足跡をきっちり残せるような、そういう人の集まりであって欲しいと思うんですね。

玉岡 現在三屋さんはいろんなご苦労を背負い込んでいらっしゃると思いますけども、こんなに明るくていらっしゃるから、会社の中や代理店・特約店をやっている人たちひとりひとりに、希望を与えておられるなというのを感じます。最後にお伺いしておきたいのですが、三屋さん個人として、女性の人生もまだまだ残りは長いんですけど、この先はどういう女性として人生を歩みたいとお考えですか。

三屋 私、十五歳からずっと人の中で育ってますから、ひとりではーっとしてる自分って想像出来ないんですよ。六十歳の自分で何してるんだらうって。四十代・五十代ってまだ勢いがあるし、人生の中で一番働ける時代だと思うんです。で、七十代は、六十代の過ごし方次第でキレイな枯れ方が出来る。だから六十代が一番難しいなと思うんです。女性の人生において、今の時代、一番難しいのが六十代。

玉岡 今五十代でキレイで輝いてらっしゃる人ってたくさんいらっしゃいますから。

三屋 私の課題は六十代ねって。それでキレイに枯れるためには、キレイに咲かないといけないし、やり残しちゃういけない。

玉岡 ちゃんと紅葉して、真っ赤に最後まで色を出してということですよ。男性って女性は年齢が若ければいいみたいに思っている人も多いですけど、女の値打ちは五十代・六十代よ、っていうことですね。そして六十代から七十代にいかにかキレイにトランジットするか、キレイに枯れながら着地するかということ。で、すごく意見が一致した、って感じで嬉しいんです。今日はありがとうございました。(カメラ・池田年夫)

□震災10周年復興キャンペーン<座談会>

みんなで演奏うよ！神戸の街で。
子どもたち（中高生）が主役です！

あした
神戸の未来を担う子どもたちの音楽イベント

Motomachi East JAZZ Picnic

KOBE Kids are marching along the MOTOMACHI East street in full swing.

出演者

曹 英生さん（ジャズピクニック副実行委員長）

永田耕一さん（ジャズピクニック副実行委員長）

今井芳男さん（株式会社アートファーマー）

11月6日7日に開催される「ジャズピクニック」は、昨年からスタートし好評を得た、中学校・高校のバンドによる野外でのジャズコンサート。実行委員長には、世界的なジャズアーティスト・日野皓正さんが就任している。今回、副実行委員長の曹さん、永田さん、制作を担当するアートファーマーの今井さんに、2回目を迎えるジャズピクニックについてお話しいただいた。





上は朝日会館で演奏する高校生たち

まちづくりからはじまる 神戸ジャズシーン

曹 もともと元町東地域協議会（MEW）のイベントは手作りが主体で、各商店街ごとに行ってきたのです。

永田 これまで、ルミナリエ開催中に手作りでチャリティコンサートをやっていたのですが、誰もやっていることを知らないし、聴いていないのですよ。手作りといってしまうのです。せっかくならこの予算を他のことに使おうと思ったのです。MEWとしてまちから発信していかなければ、なにも生まれないと思ったのです。

曹 これまでとは違った大きな音楽イベントをやりたいという永田

さんからの提案が、ジャズビクニックのきっかけでした。はじめのうちには、どんなものなのかもよくわからないし、やりだすと大変だしと思っていたのですが、2年越しの永田さんの強い思いに「やってみようじゃないか」と思えるようになったのです。

今井 ジャズビクニックはまちづくりではじめてのものです。名前も凝ったわけではなく、もともとジャズという音楽は肩肘張って聴くものではありません。そう考えたときに、演奏する方も聴きに来る方も、ピクニック感覚で参加できるように、今年「第5回ジャズボーカルクイーンコンテスト」で優勝したYoshikaさんを、シアトルに連れていったのですが、偶然にも

今年からシアトル市でもジャズビクニックが開催されることになったのです。日曜日の昼下がりに大きな広場にみんなバスケットを持って集まるのですよ。ビジネスとして考えると、イベントをやること自体が、元町東地域のプレゼンテーションになっていくのです。参加者を子供に焦点を当てたのは理由があります。ここでジャズを演奏したという経験が、その子が大人になったときにいい思い出になると思うのです。それは元町イーストとしては、まちのファンを育てていることにもつながるのです。

曹 地域の活性化という意味でやりだしたのですが、神戸は日本のジャズ発祥地だけあって、中高生のジャズレベルが高いのですよ。それが町中で再現できればいいなあという思いもありました。実際にやってみると、はじめに思っていたよりも面白かったですね。普段ジャズをあまり聴かない皆さんも、ストリートから流れてくるジャズに耳を傾けて、近づいてみると中高生がやっている姿が見られて喜んでもらえましたね。中学生もレベルの高い演奏を聴かせてくれましたしね。

今井 元町ジェムビルにうちの会

Motomachi East JAZZ Picnic2004

11月6日(出) 野外会場11:45~17:00

11月7日(日) 野外会場11:00~15:30

野外会場/三井住友銀行前(旧居留地)
元町商店街周辺
南京町広場
大丸三宮店トアロード入口前

★オープニングセレモニー(両日とも) 11:55~

★スペシャルコンサート 兵庫県公館

15:30~17:30

ジャストランペッター

日野皓正登場

前売1500円/当日2000円



日野皓正

■実行委員会事務局

MEW元町東地域協議会

神戸市中央区三宮町3-1-1

TEL078-393-2622

社を持ってきたときから、地元で地域の方々とは何かをしたいという思いはずっとありました。だから

日野皓正さんを口説いて、イベント実現へと向かっていったのです。とりあえず協力してほしいとお願ひしたのですが、やろうと思っただけで動かし出してから、実現までに3年はかかっていますね。

曹 日野皓正さんが一緒にやってくれるということもあって、参加してくれた中高生のモチベーションもぐっとあがりましたね。日野さんの人間性も含めて、参加者には刺激的な二日間だったと思います。昨年優勝の高砂高校は、映画

『スウィングガールズ』のモデルになったりと、話題性もつくれました。今年はさらに楽しみですな。

ジャズを通して まちを楽しむ

曹 昨年初めての開催で、皆さん周知していなかったと思うのですが、昨年面白かったということ、今年は注目を集めています。さらに多くの人に来てくれると思うのです。たくさんの方が来るなかで、彼女らが、どれだけがんばって去年以上の音を出せるかというところが楽しみです。

今井 「まちがステージ」だとよく言いますが、旧居留地があり、南京町があり、元町三番街がある、これだけいい場所はないと思います。

永田 新しいことをやるときは反発もあるものです。昨年の成功があつて今年につながっているのです。まちなかでやることに意味があるのだと思うのですよ。三宮神社でジャズが聴けるなんて面白いじゃないですか(笑)。

曹 神社や南京町でジャズ演奏が聴けるあたりは、型にこだわらない神戸ならではの雰囲気だと思います。もうひとつ楽しみなのは県公館を使って演奏するということ。重厚な雰囲気のおかげでどうなるかが楽しみですな。

今井 いま神戸では行政が下支えた形でまちづくりを押し進め、そこに民間が入ってくるいちばんきれいな形で、このジャズビクニックは動いていると思うのです。すくなくとも仕掛けとして、面白い仕掛けを動かせたと思います。まちは変わらないけど、イベントに参加する子供たちは毎年少しずつ変わってきますよね。それがずっとつながっていくのが良いと思うのです。今年は兵庫県公館というシンボリックな場所です。

Motomachi East

Jazz Picnic 2004

11/6(土) 7(日)



中高生が主役

関西の
ジャズキッズたちが
元町のストリートで
大セッション!



11/7 世界初演ジャズシンフォニー
日野明三 会場!
兵庫県公館 13:30~

Special Concert

【セッション会場】



*お問い合わせ/ TEL&FAX: 078-393-2622 (元町東地域協議会事務局)

■主催/MOTOMACHI EAST JAZZ PICNIC 実行委員会 ■主管/元町東地域協議会 (NEM)

●後援/兵庫県・神戸市・神戸商工会議所・兵庫県教育委員会・神戸市教育委員会・(財)兵庫県芸術文化協会
(財)神戸市民文化振興財団・(財)神戸国際観光コンベンション協会・中央区区民まちづくり会議
Feel KOBE 観光推進協議会・OJO 神戸放送局・阪神・淡路大震災10周年記念事業推進会議

●協力/旧居留地連絡協議会・日本学校ジャズ教育協会(JAJE)関西本部・(株)ホルマーニ
西日本旅客鉄道(株)・神戸三宮ライオンズクラブ

子供たちにとってまた良い経験になると思いますよ。
永田 子供が演奏するようになったら、その親もほとんどやってきますからね。今年はずでに問い合わせが殺到していますよ。我々の思いとしては、元町という言葉を外して、「神戸ジャズピクニック」に発展していければ面白いと思うのです。
今井 神戸では年間を通じて、形を変えたジャズフェスティバルが展開されています。まちによって仕掛けが少しずつ違い、それらが

つながっていくことによってさらに大きなイベントに発展していくと思います。
永田 ジャズピクニックは参加してくれる人皆さんが、まちを楽しんでほしいですね。そして演奏する子供たちにも思う存分に楽しんでほしいですね。
今井 ジャズという世界共通の大きな音楽文化を通して、まちを体感してほしいですね。これはまさにピクニックです。みんなが気楽に楽しめるのですから。

セッション会場

